



# 白樹

HAKUJU

白樹会だより 第25号

令和3年8月1日

発行／山梨県立大学看護学部同窓会 白樹会

編集／白樹会編集委員会



ホームページに最新情報を随時更新しております。  
住所変更もこちらからお願い致します。



## 次につながる活動を！



公立大学法人 山梨県立大学  
看護学部同窓会「白樹会」会長  
山梨県立高等看護学院看護第一学科

26期生 小川 忍

会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から白樹会活動にご支援、ご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

私は、昨年10月に行われた総会において白樹会の会長に就任しました。

私が就任した令和2年は、全世界で新型コロナウイルスの感染拡大が進み、山梨においても感染の拡大により県民の方々が不安な思いで感染対策に取り組んでいました。

そろそろ収束に向かうだろうと思うと第3波、第4波と不安が大きくなるばかりです。

このような中で、多くの同窓会員の皆様方には、日々医療の最前線や保健所等自治体など、様々な場で尽力されていることに心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

今後、ワクチン接種を加速させるなど、益々看護への期待と責任が大きくなってきています。

このように大変な時だからこそ、「看護のこころ」を大切に、人との距離は

とつても心はつながりを切らさずにつなげていくことを心掛けていきたいですね。

また、母校の学生にも、思い描いた学生生活とは違い、リモートでの授業、実習での制限等、勉学や生活の上で大きな影響が出ています。

同窓会では、前齊藤会長のもと「マスク購入費」の支援を行いました。

今後も、母校の学生がコロナ禍において、より良い環境の中で勉学に打ち込み、看護の道をつなげていけるように同窓会としての支援の在り方を考えていきたいと思えます。

母校は、今年度から大学院看護学研究科へ博士後期課程がスタートし、益々発展を続けてきています。

同窓会としましても、より会員相互の連帯を深め母校の発展に寄与できるように、役員一同一丸となり、白樹会活動を展開していきたいと思えます。

私自身会長となり、身の引き締まる思いですが、同窓会の発展のために努めていきますので、皆様方の変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## あいさつ



公立大学法人 山梨県立大学  
看護学部同窓会「白樹会」事務局長  
山梨県立大学看護学部

教授 前澤 美代子

私たち事務局員一同は、会長副会長とともに同窓会の皆様の活動や学生の支援を行いながら、白樹会を盛り上げ、白樹会活動の「見える化」に取り組んでまいりました。具体的には、ホームページや同窓会誌「白樹」

の刷新、大学のキャンパスの環境整備などがあります。同窓会活動で一番重要な総会が、一昨年度は大型台風の影響で中止となり、昨年度は新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大状況を鑑み、リモートで開催しました。ホームページやはがきを通して様々なご意見をいただき検討を重ねております。

母校にとって同窓会が必要不可欠な存在となるよう、役員・事務局員一同、心一つにして同窓会を発展させて参る所存です。また、同窓会の機能や同窓生のネットワークを存分に活用し、母校発展と地域社会貢献の一翼を担いたいと考えております。皆様におかれましては、これまで以上に白樹会の活動に関心を持っていただき、主体的かつ積極的に参画していただけますよう心からお願ひ申し上げます。



2020-2021年事業計画

- |                |                        |                                |
|----------------|------------------------|--------------------------------|
| 1) 通常総会開催      | 4) 山梨県立大学看護学部行事への参加・協力 | 8) 白樹会ホームページによる広報活動            |
| 2) 講演会         | 5) 在学生への支援活動           | 9) その他                         |
| 3) 同窓会誌『白樹』の発行 | 6) 在学生との交流事業           | ①リレー・フォー・ライフ・ジャパン2021甲府への支援・参加 |
|                | 7) 白樹会基金設立             | ②山梨県立大学大学院看護学研究科生への支援          |

2020年度 同窓会役員

	氏名	所属・役職名	卒業期
名誉会長	早川正幸	公立大学法人山梨県立大学 学長	
名誉会員	松野かほる	前山梨県立看護大学 学長	
	林 滋子	前山梨県立看護大学・山梨県立看護大学短期大学部 学長	
	望月 勲	前山梨県立看護大学短期大学部 学部長	
	松下由美子	前山梨県立大学看護学部 学部長	
	佐藤悦子	前公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
	流石ゆり子	前公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
	村松照美	前公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
顧問	名取初美	公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
会長	小川忍	甲府市役所福祉保健部	看1科26回生
副会長	市川佳子	山梨大学医学部附属病院	県立大4回生
	大森泉	東京西徳洲会病院	看護大9回生・県大院8回生
監事	山本美代子	自宅	看1科15回生・保健科16回生
	齊藤けさ子	自宅	看1科15回生・保健科16回生

卒業学校名称	略称	卒業学校名称	略称	卒業学校名称	略称
看護第1学科	看1科	看護第2学科	看2科	看護大学大学院	看大院
保健学科	保健科	看護短大	看短大	県立大学大学院	県大院
看護第2学部	看2部	看護大学	看護大		
看護第3学部	看3部	県立大学	県立大		

2020年度 同窓会事務局

	氏名	所属	卒業期
事務局長	前澤美代子	公立大学法人山梨県立大学看護学部	看1科34回生
書記	飯嶋玲奈	公立大学法人山梨県立大学看護学部	県立大5回生 県大院12回生
	横内理乃	公立大学法人山梨県立大学看護学部	看1科32回生
会計	高取充祥	公立大学法人山梨県立大学看護学部	県立大1回生
	三澤みのり	公立大学法人山梨県立大学看護学部	看1科41回生・保健科42回生 県大院2回生
事務局員	天野淳子	甲府市立千塚小学校	看護大4回生
	大久保知香	山梨県福祉保健部中北保健福祉事務所	看護大6回生
	小沢めぐみ	峡南医療センター富士川病院	看護大6回生
	梶原 瞳	公益財団法人山梨厚生会 山梨厚生病院	看護大5回生
	星野麻子	山梨県立育精福祉センター	看護大4回生
	渡邊 優	国民健康保険 富士吉田市立病院	看護大5回生
	井出和子	医療法人のだ内科クリニック	看2科10回生
	三枝 享	公立大学法人山梨県立大学看護学部	県立大3回生
	山岸良治	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県中央病院	看1科37回生
	見高智香	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県中央病院	県立大1回生
	木村友里	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県中央病院	県立大10回生
	奥田悠祐	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県中央病院	県立大11回生
	樋口知香	山梨大学医学部附属病院	県立大11回生
	山岸大賀彦	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県中央病院	看護大3回生
	小林美南	国民健康保険 富士吉田市立病院	県立大11回生

2019年度 (2019.9-2020.9) 白樹会一般会計決算報告

収入総額	4,565,213	円
支出総額	3,495,693	円
差し引き残額	1,069,520	円

〈収入の部〉

(単位 円・△減)

項目	2019年度予算額	2019年度決算額	増減	備考
繰越金	2,705,203	2,705,203	0	
入会金及び終身会費	2,000,000	1,860,000	△140,000	
雑収入	15	10	△5	
合計	4,705,218	4,565,213	△140,005	

〈支出の部〉

項目	2019年度予算額	2019年度決算額	増減	備考
会議費	250,000	170,733	△79,267	covid-19の影響でオンライン会議が多かったため
事業費	2,000,000	2,863,661	863,661	マスク寄付等
事務費	230,000	66,461	△163,539	
賃金	50,000	48,000	△2,000	
慶弔費	50,000	0	△50,000	
予備費	2,125,218	346,838	△1,778,380	2018年度総会中止臨時はがき送付等
合計	4,705,218	3,495,693	△1,209,525	

2019年度 (2019.9-2020.9) 白樹会特別基金決算報告

収入総額	5,010,675	円
支出総額	0	円
差し引き残額	5,010,675	円

〈収入の部〉

(単位 円・△減)

項目	2019年度予算額	2019年度決算額	増減	備考
前年度繰越金	5,010,631	5,010,631	0	
利息	48	44	△4	
合計	5,010,679	5,010,675	△4	

〈支出の部〉

項目	2019年度予算額	2019年度決算額	増減	備考
被災学生等支援費等	200,000	0	△200,000	
合計	200,000	0	△200,000	

\*細目等はページ構成の関係ですべて記載できませんので、白樹会ホームページより総会資料を確認ください。  
会計 高取充祥、三澤みのり

# 今年度の事業1

## 合格祈願・卒業記念品贈呈

国家試験合格を祈って鉛筆を贈りました。



## 大学構内環境整備への支援



正門前花壇にお花を植えました。



5号館西の駐輪場脇の雑草を除去しました。



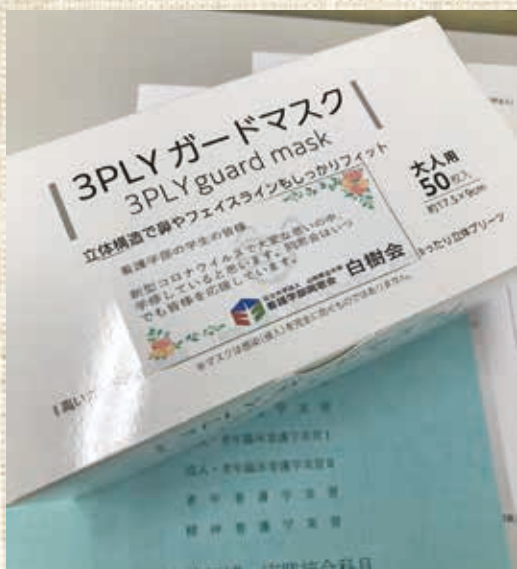
## 学生入会ガイダンス



小川会長が  
学部および大学院の新入生に向けて  
入会の説明を行いました。



## マスク寄贈について



昨年寄贈したマスクを、  
実習に臨む学生へ  
配付しました。

## 大学院生への支援

外部講師用の飲料水を寄付しました。



# 同窓生の活躍

看護師  
保健師  
助産師  
養護教諭

## あたらしいつながり方

山梨県立中央病院 看護師 山岸 大賀彦

私はこの春から日本精神科看護協会の精神科認定看護師教育課程をオンラインにて受講しています。コロナウイルス感染拡大の影響により1年間研修が延期となりましたが、同じ志を持つ受講者とオンラインという形でつながり、モチベーションを維持できました。

実際に研修が始まるとオンラインでの講義やディスカッション、プレゼンテーションなど、一人で解決しなければならぬ場面もあり悪戦苦闘の日々を送っております。しかし、受講者と直接会えなくても助言や励ましを受け、精神科認定看護師の役割である「心を病む人への多様な課題」を解決できる看護とはなにかを意見交換することができています。

オンラインでの学術集会や研修会が



増え、コロナウイルスが終息してもこのような研修モデルは続くと思います。対面で無ければ得られない人間関係もありますが、このあたらしいつながり方を再発見し、精神科認定看護師の活動にいかしていきたいと思えます。

看護師

## 看護で創造する

訪問看護ステーションつゆき 露木 里恵



露木里恵と申します。株式会社「洗心」代表をしています。会社設立後は患者家族、そして地域のニーズに沿って「ないものは造っていく」会社であり続けています。当初はどんな状態でも家に帰りたい患者さんの想いを支えていくことからはじめました。医療依存度が高く介護施設で

の生活が難しい人の住まいを造る必要を感じホスピスホームを造りました。障害児を預かるデイはあっても人工呼吸器を装着したお子さんを看るデイサービスはなく、医療ケア児デイサービスを造りました。「ないけれど必要？」は私だけが考えるのではなく職員・地域住民の声も拾って考えたいと「暮らしの保健室」も造りました。看護師の経営にこだわり広いニーズにこたえるために理念を共有するケアマネジャー・ヘルパーが必要になりました。20歳から80歳まで100名の職員がおります。「看護は創造できるもの」という望月弘子先生の教えをつないでいきたいと考えています。

訪問看護師

# 今だからこそ気が付けたこと

山梨県立中央病院 総合周産期母子医療センター

助産師 遠藤 真優

新型コロナウイルス感染症の流行：こんな時期だからこそ気が付けたことがあります。

妊産婦さんたちは、立ち会い分娩ができない不安、早く産まれてしまうのではないかとという不安、いつまで続くかわからない入院生活のストレス、でもその中で大切な人たちと会えない辛さ：様々な思いを感じ過しています。私自身も色々なことが制限される中で改めて妊産婦さんたちの思いを実感しました。分娩中、一晩中付き添って朝を迎えることも、泣きながら今の思いを相談してくれることも、一緒に泣いたこともありました。決して楽しいことや幸せなことだけではないです。

助産師



が、妊産婦さんたちのありがたうの言葉に支えられながら、今助産師を続けていられていることを実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。今、こんな時期だからこそ、改めて気付けたこの気持ちをこの先もずっと忘れずに、妊産婦さんとの繋がりを大切にして、大好きな助産師としての仕事を続けていきたいです。

# 地域のつながりを未来へ「つなぐ」

甲府市福祉保健部 地域保健課 高野 ふみ

保健師

私は、地域に暮らす難病を抱える方、成人・高齢者の方々への個別支援や、愛育会を始めとする地区組織の活動支援に関わっています。令和2年度はコロナ禍で地区活動は自粛一色の1年でした。私が担当している愛育会でも例年行われている地域住民が集う事業は1年間自粛となりました。そのような中でも、愛育班員から「地域に住む高齢者の方は大丈夫かしら」「コロナ禍でもできる活動はないかな」と自主的に声が挙がりました。そして、「今こそ愛育会活動の原点である声かけ活動を積極的にしようよ。」と班員同士の話し合いから、活動を見い出すことができました。

コロナ禍により、ますます住民同士のつながりの希薄さが社会問題となる中、地域住民の思い、つながりに感動しました。このような思いを地域全体・未来へ「つなぐ」ことができるよう、愛育会を始め、地域の皆さんと共にこれからも頑張りたいと思います。



# コロナ禍で思うこと

南アルプス市立櫛形中学校 養護教諭

武藤 まほ

養護教諭



新型コロナウイルスの流行が続く現在、医療現場や保健所等で活躍されている皆様は本当に大変な日々を送られていることだと思います。心より感謝いたします。現在私は養護教諭として中学校に勤務しています。学校も多くの行事が中止・変更となり、生徒にとって最もストレスフルな状況が続いております。しかし、何よりも大切なのは命を守ること。生徒たちも、自分や

自分の大切な人の命を守るために、新しい生活様式に順応しようと頑張っています。また、生徒たちに言わせると、学校のなかった休校期間に比べたら、友達に会えるだけずつといいそうです。新型コロナウイルスの流行により、苦しいことは多々ありますが、この自粛生活があるからこそ、大切な人たちといつでもどこでも会えるということが、どれほど素晴らしいかを感じられます。以前のような日常が戻ることを願いながら、養護教諭としてできる限りのことをしていきたいと思っています。

## 地域未来を創造する

## 大学を目指して



理事長・学長 早川 正幸

令和3年4月1日付で理事長・学長に就任いたしました早川正幸です。白樹会会員の皆様には、常日頃から多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域の未来社会構築を先導できる魅力ある拠点大学へと一層発展することを目指し、2つの新事業を始めます。

1つは、本学と山梨大学との間で一般社団法人「大学アライアンスやまなし」を設立し、展開している連携事業です。この事業は、学びのすそ野を拡げ、両大学の特色や強みをより先鋭化させることで、現代社会のニーズに答える高度人材を育成するの狙いです。事業の一環として、双方の学生に卒業単位として認定できる連携科目群が開設され、4月から授業が始まっています。人文社会科学に加え、医科学、数理情報科学、防災、芸術系などの教養科目が提供されており、学生は文理に広がる多

様な学問にチャレンジし、教養を深め広い視野を養うことができます。

2つ目は文部科学省の「地方創生人材育成事業（COC+R）」です。学生と社会人の共学を通して観光、貿易、地域づくり、医療・福祉分野等で実践的地域創生人材を育成していきます。本学は国の地方創生事業において、COC、COC+、首都圏学生対流促進、そして今回の地方創生人材育成の4事業全てを、国公立大学の中で唯一獲得しており、地域創生の拠点としてさらなる発展を目指していきます。

会員の皆様には、引き続きご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願いたします。

## 「地域を支える看護職の育成」の

## たすきをつなぐ



山梨県立大学看護学部 学部長

名取 初美

山梨県立大学看護学部同窓会白樹会の皆様には、看護学部の教育について日頃から多大なご支援をいただき、感謝申し上げます。

一昨年末から昨年度、今年度と、新型コロナウイルス感染症の拡大は止まるところを知らず、大学での教育に大きな影響を与え続けております。しかし、学内での感染対策を徹底し、今年度4月からは原則対面授業という大学の方針に基づいて、対面授業を開始しました。また、臨地実習も制限はありますが開始できています。これらは、看護学部の教育を支えてくださる多くの方々のご協力の賜物です。この場をお借りして、心からのお礼を申し上げます。ありがとうございます。

今年度の同窓会誌のテーマは「つなぐ」とお聞きしました。私が「つなぐ」から連想するのは、駅伝です。看護学部では、第1走者の県立高等看護学院から、県立看護短期大学、

県立看護大学、そして第4走者の県立大学に至るまで、「地域を支える専門職業人としての看護職の育成」のたすきをつなぎ続けています。現在では県内の看護職に占める同窓生の割合は非常に高く、山梨県の看護を支えていると言っても過言ではないと思います。また、県外でも多くの同窓生の皆様方が活躍です。次年度からは、指定規則の改定に伴って看護学部のカリキュラムが新しくなります。学生の自ら学ぶ力を強化し、

自分の将来を見据えることができるような教育内容にして、目指す看護職の育成をつないでいきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症で落ち着かない状況が続いておりますが、学生・教職員一丸となって乗り越えていきたいと考えています。

今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願致します。



## 同窓会に支えられて

### 博士課程設置の実現

山梨県立大学大学院 看護学研究科長

遠藤 みどり



未曾有ともいえる新型コロナウイルス感染症の拡大によって、医療現場で奮闘して頂いている会員の皆様、また行動自粛の日々でお辛い状況にある会員の皆様には、少しでも心安らぐ日々がありますことを願っております。

平時の生活が戻らない日々が続いておりますが、池田キャンパス構内は、桜からハナミズキの花に移ろい、陽光からの木々の芽吹きは色鮮やかさを増しており、自然界のいのちの躍動を感じられる時季になりました。本看護学研究科は、開設から19年目を迎え、今年度から博士課程としてスタートを切りました。これまでの2年間の修士課程は博士前期課程に改め、新たに3年間の博士後期課程が加わ

りました。博士課程の特徴は、ますます複雑かつ多様化する社会に応答し、保健・医療・福祉の現場における諸課題の解決や、新たな戦略をもつて、看護ケアの開発やケアシステムを改革できる高度看護実践者の育成にあります。看護実践者の育成にこだわり、現場の看護実践を大切にしてきた伝統を継承し、さらに発展させてきたからこその実現だと思っております。今年度は前期課程に8名、後期課程に5名の学生が入学し、在籍学生は総勢29名になりました。ほとんどの学生は、長期履修制度を活用して仕事との両立の中で、学修に取り組んでおります。また、コロナ禍のため、遠方に居住している学生にはリモートを活用した遠隔授業も組み入れて対応しております。これまで同窓会からは感染予防のためのサージカルマスク等のご寄附など多くのご支援を頂いております、心から感謝を申し上げます。大学院生はそれぞれの看護実践経験をともに看護実践の価値や

本質を追究しており、討論し合う機会が活気に充ち溢れております。多くの同窓会会員の皆様が母校の学び舎で、看護を学び、考えを深めていく機会・出合いになることを切に願っております。現在まで、大学院が発展できたのも同窓会の皆様のご支援やご協力所以と感謝しております。今後とも引き続き、同窓会長の小川忍様をはじめ会員皆様からのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 働きながら大学院で学ぶ

山梨県立大学大学院 看護学研究科 博士前期課程

急性期看護学分野 深沢 壮



いです。また、指導教授の遠藤教授やご指導くださる先生方の看護に対する熱い思いに導かれ、自身も学ぶことで新たな知識や考え方を身に付けることができ、大きなやりがいを感じています。

私は、県内の病院で勤務をしながら、山梨県立大学大学院看護学研究科にて、高い専門性と知識を持った看護を行えるよう学修をしています。大学院の学修は、これまでの教育とは異なり、与えられた課題の中からさらに自分自身で疑問を持ち追及していくことや考えたことを他者に伝えられるよう言語化することが重要です。それは、難しさもありますが、課題を乗り越えられた時の達成感が大きいです。

勤務をしながら、大学院で学ぶことは時間的に厳しいと感じることが多々あります。しかし、そのような中でも私の勤務に合わせて時間を割いて講義を調整してくださる先生方には、とても感謝しております。また、仕事と学業で家庭のことをおろそかにしてしまっている私を温かく支えてくれる家族の支えも有難く思っています。



# 今年度の事業2

## 国際交流支援活動

### 2020年度「国際保健医療演習」授業報告

コロナ禍の中、当該科目のラオス研修は年度内ぎりぎりまで情勢改善を待ったが、前年度に続き断念せざるを得なかった。その代替プログラムとしてNPOのISAPHによる集中講義を2021年2月18日、19日の2日間で開講した。ISAPHは平時のラオス研修の際、現地でお世話になっている団体で主にラオスとマラウイで保健医療活動を展開している。学生は現地からの配信動画や、ラオス担当看護師による「住民の母子保健サービスへのアクセス」プロジェクト、マラウイ担当管理栄養士による「5歳未満児の栄養改善」プロジェクトの講義をもとに、各地域の保健課題と可能な支援についてディスカッションを行った。学生は「自分の中に途上国、最貧国だからという先入観があることを感じた。また事前課題でその国を知った気になっていても実際には半分も理解できていない自分に気づいた。支援を考える時、途上国で今起きていることに目が行きがちだが、その原因や背景に目を向けなければ根本的な解決にならないこと、他国からの物資支援ではなく、その国の人がある国の環境を使って自ら改善に向かうことに意味があることを学んだ。今まで国際看護は異なる地と文化に関わる難しい仕事だと思っていたが、保健活動のプロジェクト構成や進め方を学び、根本的な考え方は私たちが今学んでいる看護過程と変わらないことが分かり、国際看護が身近に思えた」との学びを残している。



### 日本での外国人学校での健康支援活動への参加

日本人なら当たり前の学校健診を受けることができない外国人の子どもたちがいます。外国人学校に通う在留資格を持つ「在留外国人」の子どもたちは、学校保健安全法が適用されないことから、定期的な学校健診を受けることができません。南アルプス市にあるブラジル人学校では、2才から18才までの子どもたちが教育を受けており、市民団体が中心となり手作りの学校健診が毎年行われています。「国際看護学」では、任意の課外活動として、健診の補助や身体計測を看護学部生が行っており、2020年度は健診に加え一次救命処置（BLS）の体験、感染症予防の講義等を行いました。学生たちは、ポルトガル語は分からなくとも、子どもたちの健やかな成長を手助けしたいという思いで2020年度も参加し、マスク越しの交流を深めました。



「国際保健医療演習」、「国際看護学」

(科目担当教員) 長坂香織、井川由貴

(看護学部4年生) 雨宮茉友子、飯野美貴、大桃唯華、岡田彩、中村亜里紗、白石まりあ

# 母校の「つながり」にいつも支えられて

山梨県立大学大学院看護学研究科 特任教授

山梨県看護協会会長 佐藤悦子



この池田キャンパスには、学生時代も含めまずと43年もの間通い続けました。生きてきた3分の2をこのキャンパスで過ごし、今年3月に退職という、ひと区切りを迎えました。改めてこのキャンパスで出会った多くの先輩方や仲間たちに、様々な場面で支えていただき、今があると思っています。

山梨県立高等看護学院から平成7年度に県立看護短期大学に、さらに平成10年度には県立看護大学、平成14年度に大学院が開学し、令和3年度には大学院博士後期課程が開学しました。途中、合併や法人化という時代の大きな流れの中で、母校の名称は県立大学看護学部・大学院看護学研究科と改変いたしました。

しかし、その渦中にいていつも思ったことは、脈々と流れる母校の根幹、「同じ志を持つ仲間とのつながり」はゆるがないうことでした。「看護」を追求し、学びあい、看護専門職として高めあっているという「人とのつながり」温かさに、



どれだけ支えていたかわかりませぬ。学生の教育、研究に支援をいただき、そんな環境で育った卒業生・修了生たちが、今度は支える立場で支援してください。県立大学看護学部や大学院が社会に評価される卒業生・修了生を輩出してこられましたのも、この「つながり」のおかげだと心から深く感謝しております。本当にありがとうございました。

私は4月からは、博士後期課程の教育の一部を担わせていただきながら、山梨県看護協会会長として、また母校の皆様の支援をいただきたいと思っております。母校がますます発展し、質の高い看護専門職が元気に社会で活躍できますよう、これからご支援・ご指導をよろしくお願いたします。



## 通常総会の開催方法および講演会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を受け、白樹会事務局では、今年度の通常総会開催にあたり、協議を重ねてまいりました。

同窓会員皆様の安全性確保が優先されるべきであるとの考えは引き続き変わりありませんが、一方で、総会議案を適切に判断するために必要な情報が提供されるべきと考えております。

そこで、2021年10月9日開催予定の通常総会は、当日の会場開催を中止し、オンラインのみの開催とすることを決定いたしました。講演会につきましては、まことに残念ながら昨年同様中止とさせていただきます。

通常総会の資料等詳しい情報は随時ホームページで公開してまいります。一人でも多くの会員の皆様のリモートによるご参加をお待ちしております。

# 「白樹会基金」を設立します。

ただいま、基金規定を整備しております。

山梨県立大学大学院看護学研究科

## 2022年度大学院生募集

詳しくは、「山梨県立大学大学院」を検索  
<http://www.graduatenuing-yamanashiken.com/>



山梨県立大学看護実践開発研究センター

## 母校で認定看護師をめざそう!

(認知症看護)

詳しくは <https://rcdnp.yamanashi-ken.ac.jp/>



## 同窓会幹事代行『Reフレンズ』

同窓会をしたいけど、幹事は大変・・・  
そんな幹事様の声にお応えして、  
サラトが幹事の仕事を代行いたします！  
まずは、お気軽にお問い合わせください。



同窓会専用  
ホームページ  
開設  
パスワードでログイン  
セキュリティも安心

当日までの雑務は  
すべて  
おまかせ

案内状を  
出したくても  
住所が分からない  
そんなケースにも  
対応!

お問い合わせ | 株式会社 サラト 同窓会プロデュース専用

TEL 0120-953-070

受付時間 月～金 9:30～12:00/13:00～17:00

WEB サラト 検索

「サラト」で検索。同窓会幹事代行  
Reフレンズのバナーをクリック。



株式会社 サラト

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172番地  
Tel.079-284-1380 Fax.079-288-4834

### 編集後記

今年も白樹の会誌をお届けする時期がまいりました。この時期は丁度、母校の木々が青々と茂り、ナースキャップを想起させる図書館の白い壁が青空のなかで眩しく反射し、学生時代の友人や先生方の顔が自然と思い出され、年度初めの慌ただしい時期にも関わらず、母校から不思議なエネルギーを頂ける時期でもあります。

会誌を作成する過程は、我々事務局員一同にとって、母校を改めて見渡す機会でもあり、全国各地でご活躍し、母校の発展を温かく見守って下さる同窓生の声、在校生の声を大切にしながら、日々の活動に尽力し、活動報告を分かりやすく伝えるべく、意見交換を繰り返し完成に至っております。

改めて、皆様のご健闘と母校の発展を願い、つながりあえる会誌であり続けたいと思います。今後とも、事務局員一同、お互いが智慧をだし、充実に向けて努力しますので、お力添えをよろしく願います。

編集委員一同

